

青山学院大学大学院

年度	2026
研究科	文学
専攻	英米文学
課程	博士前期
入試種別	博士前期課程入試（秋）
試験科目	専門知識
科目詳細	英文学
解答区分（該当に○）	解答 ・ 解答例 ・ 評価基準 ・ 具体的な出題意図 ・ 解答のポイント ・ 略解

問1

- (a) 英文学の作品の解釈能力を判断する。また英文を構成する力を判断する。
- (b) 受験者が自身の研究を英文学研究全体の中で適切に位置づけられるかを判断する。

問2

- (a) 英文学の文学史について十分な知識を有しているかを判断する。
- (b) 英文学の研究文献の理解力を判断する。
- (c) 受験者が自身の研究を英文学研究全体の中で適切に位置づけられるかを判断する。また英文を構成する力を判断する。

青山学院大学大学院

年度	2026
研究科	文学
専攻	英米文学
課程	博士前期
入試種別	博士前期課程入試（春）
試験科目	専門知識
科目詳細	英文学
解答区分（該当に○）	解答 ・ 解答例 ・ 評価基準 ・ 具体的な出題意図 ・ 解答のポイント ・ 略解

問1

- (a) 英文学の文学史について十分な知識を有しているかを判断する。
- (b) 英文学の研究の現状について十分な知識を有しているかを判断する。また英文学の研究文献の理解力を判断する。
- (c) 受験者が自身の研究を英文学研究全体の中で適切に位置づけられるかを判断する。また英文を構成する力を判断する。

問2

- (a) 英文学の研究文献の理解力を判断する。
- (b) 受験者が自身の研究を英文学研究全体の中で適切に位置づけられるかを判断する。また英文を構成する力を判断する。

## 青山学院大学大学院

年度	2026
研究科	文学
専攻	英米文学
課程	博士前期
入試種別	博士前期課程入試（秋）
試験科目	専門知識
科目詳細	米文学
解答区分（該当に○）	解答 ・ 解答例 ・ 評価基準 ・ <span style="border: 1px solid black;">具体的な出題意図</span> ・ <span style="border: 1px solid black;">解答のポイント</span> ・ 略解

### 問題I

#### 出題意図

アメリカ文学史における主要な人名・著作名・詩行など、また文化史・文学史的に重要な事項についての基礎知識を問う。アメリカ文学・文化の同時代的・歴史的研究を行うのに必要な基礎的知識を有しているかを確認することが出題意図である。

#### 解答のポイント

##### 1) "I celebrate myself, and sing myself"

この詩行の作者名 (Walt Whitman)、詩のタイトル ("Song of Myself" および/または *Leaves of Grass* への言及) と詩の内容と形式上の特徴 (口語体、カタログなど)、後続の詩人に与えた影響など文学史的意義に言及することが期待される。

##### 2) Ralph Ellison

20世紀中葉のアフリカ系アメリカ人作家であること、主要な著作 (*Invisible Man* など) とその内容、「抵抗の文学」からの飛躍など文学史的意義に言及することが期待される。

##### 3) Lost Generation

「失われた世代」の登場した第一次世界大戦後の時代背景と思潮に基づいた全般的特徴を説明し、この世代に属した作家名 (Ernest Hemingway など) と代表作 (*A Farewell to Arms* など) を事例として挙げることを期待される。

##### 4) *Long Day's Journey into Night*

作品のジャンル (演劇)、作家名 (Eugene O'Neill)、内容 (自伝的家族劇、麻薬中毒患者の母を中核とする両親・兄弟の葛藤、芸術家の精神とその崩壊など) について説明することが期待される。

##### 5) The Cold War

時期 (第二次世界大戦後から1980年代末まで)、定義 (アメリカ合衆国とソビエト連邦を盟主とする資本主義・自由主義陣営と共産主義・社会主義陣営との対立状況など) およびアメリカ文化への影響 (50年代のマッカーシズムなど) を記述することが期待されている。

### 設問 1

A 散文、B 演劇、C 詩の引用文について、要約を求める問題である。選択した引用文の英語読解力と形式およびテーマの理解力、そして要点の理解と表現力を問う設問である。文学・文化の同時代的・歴史的研究を行うための読解力、論理的思考力、表現力を測る。

### 設問 2

A, B, C ともに設問 1 の内容をもとに与えられた課題に沿って論述するのに十分なアメリカ文学作品についての知識と思考力、および正確かつ説得力のある論述の構成力と表現力を問う設問である。文学・文化の同時代的・歴史的研究を行うための基礎知識、論理的思考力、表現力を測る。

## 青山学院大学大学院

年度	2026
研究科	文学
専攻	英米文学
課程	博士前期
入試種別	博士前期課程入試（春）
試験科目	専門知識
科目詳細	米文学
解答区分（該当に○）	解答 ・ 解答例 ・ 評価基準 ・ 具体的な出題意図 ・ 解答のポイント ・ 略解

### 問題I

#### 出題意図

アメリカ文学史における主要な人名・著作名・詩行など、また文学史・文化史的に重要な事項についての基礎知識を問う。アメリカ文学・文化の同時代的・歴史的研究を行うのに必要な基礎的知識を有しているかを確認するのが出題の意図である。

#### 解答のポイント

##### 1) Benjamin Franklin

ジャーナリスト、科学者、政治家としてアメリカ独立と文化に果たした役割、主要な著作（*Autobiography* など）、セルフメイド・マンとしての資本主義的成功と民主主義の象徴としての文化的地位を説明することが期待される。

##### 2) Sylvia Plath

自伝的な小説と詩作、代表的著作（*The Bell Jar*, *Ariel* など）、政治的フェミニズムとは異なる女性の視点から親子関係・夫婦関係などを描いたことなど作品の特徴に言及することが期待される。

##### 3) Naturalism

ダーウィニズムや社会進化論を背景にした 20 世紀転換期の自然主義文学の特徴と代表的作家（Frank Norris など）、作品（*McTeague* など）を例として挙げることを期待される。

##### 4) "The American Scholar"

作者名（Ralph Waldo Emerson）、講演内容（アメリカ独自の思想・文化の形成への訴え、超絶主義と自己信頼の思想など）、文学史的意義（ヨーロッパ文化とは異なるアメリカの知的独立宣言とされること）について記述することが期待される。

##### 5) *A Raisin in the Sun*

ジャンル（演劇）、作者名（Lorraine Hansberry）、内容（黒人労働者家族のアメリカの夢、人種・階級・ジェンダーによる抑圧、アフリカ植民地解放闘争など）、文化・演劇史的意義（黒人女性劇作家の作品として初のブロードウェイ公演、公民権運動とパンアフリカニズムとの共鳴など）について記述することが期待される。

### 問題II

#### 出題意図

##### 設問 1

A 散文、B 演劇、C 詩の引用文について、要約を求める問題である。選択した引用文の英語読解力と形式およびテーマの理解力、そして要点の理解と表現力を問う設問である。文学・文化の同時代的・歴史的研究を行うための読解力、論理的思考力、表現力を測る。

##### 設問 2

A, B, C とともに設問 1 の内容をもとに与えられた課題に沿って論述するのに十分なアメリカ文学作品についての知識と思考力、および正確かつ説得力のある論述の構成力と表現力を問う設問である。文学・文化の同時代的・歴史的研究を行うための基礎知識、論理的思考力、表現力を測る。

青山学院大学大学院

年度	2026
研究科	文学
専攻	英米文学
課程	博士前期
入試種別	博士前期課程入試（秋）
試験科目	専門知識
科目詳細	英語学
解答区分（該当に○）	解答 ・ 解答例 ・ 評価基準 ・ 具体的な出題意図 ・ 解答のポイント ・ 略解

The purpose of the instructions is to assess how well prepared you are to begin graduate-level study in your chosen field. For Instruction I, you are expected to develop and elaborate on the ideas you presented in your Statement of Purpose（入学志願書）. Instruction II is included because it is desirable for applicants to have interests in more than one area of English linguistics or Philology. Although your response to Instruction II does not need to demonstrate specialized expertise, it must be written professionally and organized in a clear, coherent structure.

Please be reminded that, as stated in both instructions, you may write your responses in either English or Japanese, except in areas supervised by C. Thompson, where English is required.

青山学院大学大学院

年度	2026
研究科	文学
専攻	英米文学
課程	博士前期
入試種別	博士前期課程入試（春）
試験科目	専門知識
科目詳細	英語学
解答区分（該当に○）	解答 ・ 解答例 ・ 評価基準 ・ <span style="border: 1px solid black;">具体的な出題意図</span> ・ <span style="border: 1px solid black;">解答のポイント</span> ・ 略解

The purpose of the instructions is to assess how well prepared you are to begin graduate-level study in your chosen field. For Instruction I, you are expected to develop and elaborate on the ideas you presented in your Statement of Purpose（入学志願書）. Instruction II is included because it is desirable for applicants to have interests in more than one area of English linguistics or Philology. Although your response to Instruction II does not need to demonstrate specialized expertise, it must be written professionally and organized in a clear, coherent structure.

Please be reminded that, as stated in both instructions, you may write your responses in either English or Japanese, except in areas supervised by C. Thompson, where English is required.

青山学院大学大学院

年度	2026
研究科	文学
専攻	英米文学
課程	博士前期
入試種別	博士前期課程入試（秋）
試験科目	専門知識
科目詳細	英語教育学・コミュニケーション
解答区分（該当に○）	解答 ・ 解答例 ・ 評価基準 ・ 具体的な出題意図 ・ 解答のポイント ・ 略解

設問I 次の項目から5つ選び、それぞれ5行以内の日本語で説明しなさい。（12, 13については英語で解答すること。  
解答用紙その1を使用）

以下の解答例は、正解の例であり、他にも複数の解答の書き方があると思います。

1. spiral of silence
2. regulators
3. reflexive interpreting research
4. opera surtitling
5. negative politeness
6. implicature
7. Toulmin Model
8. cultural relativism
9. English as a lingua franca
10. Assessment for Learning
11. Low/High Order Thinking Skills
12. diasporic groups
13. majority identity (development)

#### spiral of silence

1970年代にノエレ＝ノイマンが提唱した理論。人は孤立の恐怖から周囲の意見を察知し、自説が少数派と判断すると発言を控える。この沈黙が「少数派の意見」という印象を強め、知覚された多数派の意見がより目立ち、少数派はさらに沈黙する螺旋が生まれるというもの。近年はネット上での適用も議論されている。

#### regulators

1960年代にエクマンらが提唱した、会話の進行を調整する非言語行動の分類。うなずき、視線、身振り、姿勢の変化などで話順の維持や終了の合図を送り、言葉だけでは制御しきれない対話のリズムを整え、関心や理解度のフィードバックを通じて対人関係も調整する役割を担う。

#### reflexive interpreting research

自己省察的通訳研究とは通訳研究の一分野であり、批判的な自己認識、内省的な実践、そして研究過程における研究者自身の立場を重視するアプローチである。通訳という行為やその研究を行う際に、通訳者や研究者自身の立場、価値観、経験、さらには社会的・文化的背景がどのように影響しているかを意識的に振り返り検討する。

#### opera surtitling

視聴覚翻訳の一種であり、オペラの歌詞などの翻訳をリアルタイムに表示する字幕のことである。字数や表示時間などの制限がある中、観客が作品の内容を理解できるように工夫されている。異言語間字幕の他に同一言語内字幕を指すこともある。

#### negative politeness

Brown and Levinson の理論において、ポライトネスとは「円滑なコミュニケーションのための、人や場面に対する配慮」であるが、これは積極的ポライトネスと消極的ポライトネス（negative politeness）に分けられる。人の消極的面子を満たそうとするものが後者のポライトネスである。

## implicature

米国の言語哲学者 Paul Grice の用語。含意。人は「今何時？」と聞かれ、明確に「4時です」と答える場合もあるが、「ええと、さっき新聞配達は来たけれど」などと答える場合がある。このような発話の含意は「今の時刻は、通常新聞配達が来る時刻より遅い」である。聞き手は話し手の含意を、推論して、話し手の意味を理解する。

## Toulmin Model

英国哲学者スティーヴン・トゥールミンが提唱した論理的な議論を構築・分析するための枠組みであり主張 (claim)、データ (data)、理由づけ warrant) を基本要素とし演説やディベート、論文で活用される。例: 今日雨が降りそうだ (主張)、天気予報で降水確率 90% と言っていた(データ)、雨の予報がある時は雨が降る (理由づけ)。

## cultural relativism

文化相対主義とは他の基準で判断するのではなく、その人自身の文化に基づいて信念、価値観、慣習を理解するという理論であり、文化人類学者 Franz Boas によって提唱された。どの文化も本質的に他の文化より優れているわけではないという概念である。自民族優越主義に対して寛容さ、文化的感受性、人間の多様性への理解を重視する。

English as a lingua franca (ELF) は、母語 (第一言語) が異なる人同士がコミュニケーションを取るために用いる「共通語としての英語」を指す。ELF 環境下では、英語の正確さよりもコミュニケーションが成立することが重視される。そのため、相手に「分かりやすい(intelligible)」英語で伝えるために、発音や語彙選択、表現などを工夫して話すことが求められる。

Assessment for Learning(AforL)は「学習のための評価」のことであり、「学習の評価」を意味する Assessment of Learning(AofL)と対比的に用いられる。AofL が学習の最終的な成果に関して点数や評定をつける総括的評価であるとする、AforL は学習途中でよりよい学習成果に向けて改善を促すフィードバックなどを行う形成的評価となる。

## Low/High Order Thinking Skills

Bloom(1956)が提唱した思考の分類(taxonomy)の Anderson らによる改訂版(2001)では、低次思考力(Low Order Thinking Skills: LOTS)と高次思考力(High Order Thinking Skills: HOTS)を区別しており、「記憶する」「理解する」「応用する」を低次思考力、「分析する」「評価する」「創造する」を高次思考力と位置づけて、6段階に階層化している。

## diasporic groups

Diasporic groups are communities of people who have been dispersed from their original homeland, either voluntarily or involuntarily, and now live in different regions while maintaining cultural, social, or emotional ties to their ancestral origins. These groups often preserve their heritage and identity, shaping their experiences in new environments.

## majority identity (development)

Majority identity development refers to the process through which individuals in dominant or majority groups come to understand their social identity, privilege, and relationship to minority groups. This development often involves stages, including unawareness of privilege, resistance to acknowledging systemic advantages, and eventual integration of this awareness into a broader, empathetic self-concept.

## 設問II

<出題の意図>

英語教育学・コミュニケーション分野で網羅する研究領域 (英語科教育・第二言語習得論・対人コミュニケーション・非言語コミュニケーション・異文化コミュニケーション・語用論・社会言語学・談話分析・パフォーマンス研究・通訳翻訳研究・TESOL) から出題した。

この問は、博士前期課程入学後の研究を遂行するために、各研究領域の重要な問題点について、十分に理解し、また、10行程度で簡潔かつ十分に論述する能力を備えているかを評価するために出題した。

以上

青山学院大学大学院

年度	2026
研究科	文学
専攻	英米文学
課程	博士前期
入試種別	博士前期課程入試（春）
試験科目	専門知識
科目詳細	英語教育学・コミュニケーション
解答区分（該当に○）	解答 ・ 解答例 ・ 評価基準 ・ 具体的な出題意図 ・ 解答のポイント ・ 略解

設問I 次の項目から5つ選び、それぞれ5行以内の日本語で説明しなさい。（12, 13については英語で解答すること。  
解答用紙その1を使用）

以下の解答例は、正解の例であり、他にも複数の解答の書き方があると思います。

1. prestige form
2. transcript for discourse analysis
3. verbal aggressiveness
4. mindfulness
5. interlanguage
6. washback effect
7. learner corpus
8. visible translation strategy
9. transmediation
10. verbal delivery
11. special occasion speech
12. cultural intelligence (CQ)
13. third culture kid

#### prestige form

威信形。社会言語学の用語。社会的に威信がある人々が話す形式やスタイルを指す。一般に社会階級の尺度が上がるにつれ、言語は威信を持つとされる。音声面での例は、イギリス英語におけるRP（received pronunciation）があげられる。

#### transcript for discourse analysis

談話分析 (discourse analysis) においては、最初に談話を録音し、次に文字化を行う。そうして出来上がったデータ資料がtranscript (トランスクリプト) である。話された談話は音声であり、すぐ消えてしまうが、トランスクリプトにすることにより、人が無意識に生産した談話現象が手に取るように観察出来る。

#### verbal aggressiveness

1980年代にインファンテらが提唱した、議論の内容ではなく相手の人格や自己概念を言葉で攻撃する破壊的傾向を指す。「性格が歪んで無能」などの侮辱や嘲笑、強い言葉や表現を用い、論理的反論の代わりに相手を屈服させようとする。信頼関係を損ない対話や協調を阻害するため、建設的コミュニケーションでは避けるべき。論証性とは区別される。

#### mindfulness

対人コミュニケーション研究において、自他の心身の状態や状況に意図的に、今この瞬間に評価を挟まず気づくことを指す。文脈を広く捉え、言語・非言語情報の背景まで深く理解すると同時に、自動的な反応をコントロールする。新しい視点を柔軟に取り入れて応答を選ぶことで、誤解や衝突を避け、共感と信頼に基づく関係を築き、対話の質を高める。

#### interlanguage

中間言語 (interlanguage)とは、Selinker (1972) が提唱した概念である。目標言語と母語（第一言語）の中間に位置する学習者独自の言語体系であり、学習者が何とかして意味を伝えようとする際に創り出す言語である。中間言語は抽象的な概念であり、学習者によって異なる部分があり、同一学習者でもその発達段階により日々異なる中間言語体系を持つことになる。

#### washback effect

波及効果(washback effect)とはテスト用語であり、信頼性(reliability)や妥当性(validity)と同様によりテストかどうかを表す指標の一つである。波及効果はテストがもたらすカリキュラムや教授・学習への影響を示し、テスト内容が学習内容と合っている場合は正の効果となるが、合っていない場合はテストのために学習をする負の効果をもたらす。

#### learner corpus

コーパス (corpus) は書き言葉や話し言葉のデータを大規模に収集・整理した自然言語の資料であり、電子化により統計処理や分析が可能となっている。そのうちの一つの学習者コーパス (learner corpus) は、学習者が産出した言語データを集めたものであり、習得上の誤りを含むデータとなっていることが特徴となる。

#### visible translation strategy

翻訳研究者のVenutiは「同化」と「異化」という二つの翻訳方略について論じ、翻訳者の不可視性と可視性について明らかにした。翻訳者の可視性がみられるvisible translation strategyでは、原文の異質性を残す異化の翻訳戦略がとられる。

#### transmediation

あるメディアで表現された内容や意味を別のメディアへと移しかえて表現し直すこと。小説を映画や舞台に翻案、物語を絵やマンガ、音楽で表現するなど。言語だけでなく映像・音声・身体表現など異なる記号体系を通して意味を再構築する点が特徴。元の内容を保ちながらも新しいメディアの特性に応じた創造的な解釈や再表現が行われる。

#### verbal delivery

演説する際に話し手が声と言葉を使ってメッセージを効果的に伝える方法を指す。単に「何を言うか」ではなく「どのように言うか」が聴衆の理解や信頼性に大きく影響する。要素として声のバリエーション、会場や聴衆の数に合わせた声量、声の高低 (pitch)、速度(rate)、明瞭さ (articulation)、発音 (pronunciation)、戦略的な間 (pauses) がある。

#### special occasion speech

特別な場でのスピーチ、または式典スピーチは、重要な人生の出来事の際に披露され、詳細な情報よりも感情、祝賀、記念に焦点を当てる。効果的な構成は個人的で簡潔であり、聴衆のニーズに合わせたものである。具体例は結婚式の乾杯スピーチ、弔辞、受賞スピーチ、卒業式でのスピーチ、話者紹介のスピーチ等である。

#### cultural intelligence

“Cultural intelligence” is the ability to understand, adapt, and function effectively in culturally diverse settings. It involves navigating cultural differences across national, ethnic, or organizational contexts, enabling individuals to make informed judgments and work confidently in unfamiliar cultural environments.

#### third culture kid

A third culture kid (TCK) is a person raised in a culture different from their parents' or their country of nationality for a significant part of their developmental years. They often blend elements of multiple cultures, creating a unique "third culture" identity shaped by diverse cultural influences.

#### 設問II

<出題の意図>

英語教育学・コミュニケーション分野で網羅する研究領域（英語科教育・第二言語習得論・対人コミュニケーション・非言語コミュニケーション・異文化コミュニケーション・語用論・社会言語学・談話分析・パフォーマンス研究・通訳翻訳研究・TESOL）から出題した。

この問は、博士前期課程入学後の研究を遂行するために、各研究領域の重要な問題点について、十分に理解し、また、10行程

度で簡潔かつ十分に論述する能力を備えているかを評価するために出題した。

以上